



影岡 俊範 議員

問 里海とは、「人手が加わることにより生物生産性と生物多様性が高くなつた沿岸海域」のことである。かつての日本沿岸域には、多くの藻場・干潟が存在した。

私が小学生の頃、夏に北黒田海岸の干潟でハマグリを採集して夕飯のおかずにした記憶もあり、また地引網漁も見かけたものである。

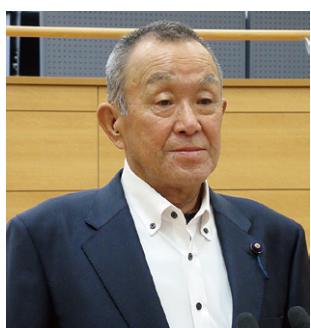
「里海」のブルーカーボン生態系は「海のゆりかご」とも呼ばれ、多様性を豊かにし、産卵場や稚魚の成育場として水産資源を供給し水質浄化、教育やレジャーの場を提供、生活文化の醸成など様々な恩恵をもたらしてくれる。

本町において里海の創生あるいは復興に取り組む考えはないか。

ブルーカーボンを取り込み、蓄積する海洋生態系が地球温暖化対策としての吸収源の新しい選択肢として世界的に注目されている。

本町に存する重信川河口の干潟をはじめ、塩屋海岸、新立北黒田海岸といつた浅海において、豊かで多様な海洋生態系を有する「里海」の創生を図ることは、カーボンニュートラルの実現にとって有効であると認識している。

里海づくりは、市町を越えた対応が必要であることから、県の事務として取り組んでいる。町としては、今後、県が進める里海づくりの取組を注視しながら、連携を図っていきたい。



西村 元一 議員



答 問 松前港への真水の流入対策は、大地に降った雨が河川を通じて海に流れるのは自然の摂理であり、大雨の影響により松前港内が淡水化する環境の変化も自然の営みである。

こうした自然環境の変化により影響を受ける場合、自ら対策を講じなければならないと考える。

問

松前港の移転計画が中止になつた理由は。

答 問 県の地域高規格道路整備計画が、松前港を埋立てして自動車専用道路を整備する計画であつたことから、県が併せて松前港の整備をしようとしたものである。しかし、地域高規格道路整備計画に進展がなかつたことでは必然的に具現化されなかつた。

答 問 漁港移転の必要性は。

松前港内には漁港漁場整備法



答 問 汚水終末処理場建設に伴い、汚水終末処理場建設に関する覚書に基づき、町は漁業振興費として平成7年度から平成11年度までの5年間、毎年1千万円を支払っている。

町と松前町漁業協同組合との松前町から5千万円が支払われているが、その内訳は。

状況の松前港は、漁業を営むために必要な機能を有している。現状の松前港は、漁業を営むために新設する必要性はないと考える。